福祉だいご

No.71
令和２年11月20日発行

社会福祉法人　大子町社会福祉協議会
会長　高 梨 哲 彦
住所：大子町大子722-1
電話：72-2005　FAX：72-1121
E-mail：daigo-syakyo@ia8.itkeeper.ne.jp
ＵＲＬ：http://daigo-syakyo.jp/

本号の内容

●令和元年度事業報告・決算……Ｐ２―３
●令和２年度事業計画・予算……Ｐ４
●赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金報告　Ｐ５
●令和元年東日本台風関連
　災害ボランティアセンター報告……Ｐ６―７
●善意銀行からのお知らせ・
　大子福祉作業所移転のお知らせ……Ｐ８

就労継続支援事業所B型大子福祉作業所が移転しました

被災直後の大子福祉作業所（旧高齢者センター）

令和元年度事業報告

長寿化・少子化による高齢社会の中で多様化するニーズに対し、町民の理解と協力を得ながら、福祉・保健・医療関係者、各種団体・施設・ボランティアとの連携を図り、子どもから高齢者、障がい者“だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり”を目指し、各事業を実施しました。主な事業を下記のとおり報告いたします。

■地域福祉事業

ボランティア活動の推進

ボランティア活動に関する相談や情報提供等を行いながら、必要に応じてボランティア活動を希望する人と必要としている人の橋渡しを行いました。また、人材育成のための各研修会に参加し、ボランティア活動に必要な知識と技術の向上に努めました。

地域福祉活動推進事業

全地区で区長、民生委員児童委員が中心となり、地域における特性を生かして実施されているひとり暮らし高齢者等の配食サービスや会食会、訪問活動に補助金を交付し、地域住民の交流の機会の確保や地域福祉の充実に努めた。

在宅介護用品貸出し事業

病気やけが等で介護用品が必要となった方を対象に無料で貸出しを行いました。（延件数：福祉車輌 80 件・車いす 55 件）

友愛訪問活動事業

閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者や寝たきり高齢者等の自宅に同じ地域に住む同世代の老人クラブ会員が訪問し、いつまでも地域とのつながりが保てるよう見守り活動を行いました。（訪問実人数 86 名）

あんしんコール事業

ボランティアの協力を得て、ひとり暮らし高齢者等へプライバシーを守りながら定期的に電話をすることにより、孤独感の解消に努めました。
（開設日数 127 日　利用者数 41 名　延件数 1,582 件）

高齢者大学事業

高齢者の生涯学習・生きがい・健康づくりの推進のため毎月学習会を開催しました。（参加延人数 414 名）

ふれあいいきいきサロン事業

高齢者や障がい者、子育て中の家庭等が身近な地域でボランティアと一緒に生きがいや健康づくり等の企画運営を行いながら交流の輪を広げることで、閉じこもり防止や孤独感の解消等に努めました。（中央型 9 ヵ所・小地域型 10 箇所　参加延人数 6,169 名）

介護用品事業

○介護用品宅配事業
高齢者等に対して宅配の方法により、毎月の上限額を設けて無償で介護用品を支給しました。
○介護用品購入費助成事業
高齢者等又は高齢者等を介護している者に対し、上限額を設けて介護用品の購入費用の全部若しくは一部の助成を行いました。

事業名	申請件数	助成額
介護用品宅配事業	594 件	10,943,500 円
介護用品購入費助成事業	414 件	11,389,402 円

地域支え合いサービスセンター「さとも」事業

※令和元年 9 月 1 日より、町受託事業の大子町在宅福祉サービスセンターから、町補助事業の地域支え合いサービスセンター「さとも」に移行。非営利的な有償による訪問サービスを行う住民参加型福祉供給組織「地域支え合いサービスセンターさとも」を設置し、高齢者や障がい者等の家事援助・話し相手等の様々な支援を行い、在宅での日常生活の充実を図るとともに、本人・家族の身体的・精神的負担の軽減を図る在宅福祉サービスの推進を行いました。

「大子町在宅サービスセンター」H31.4.1 ～ R1.8.31

利用会員数	協力会員数	活動延回数
84 名	30 名	374 回
活動延時間数		483.75 時間
（内訳）食事の支度		84.75 時間
住居等の掃除、整理整頓		312.5 時間
生活必需品等の買物		57.0 時間
通院及び外出付き添い		8.0 時間
衣類の洗濯		9.0 時間
話し相手・読み聞かせ		9.0 時間
その他		3.5 時間

「地域支え合いサービスセンター「さとも」」R1.9.1 ～ R2.3.31

利用会員数	協力会員数	活動延回数
35 名	27 名	364 回
活動延時間数		462.0 時間
（内訳）食事の準備・片付け		57.0 時間
住居内の掃除、整理整頓		303.9 時間
生活必需品等の買い物代行		66.0 時間
外出時の付添い		0.0 時間
衣類の洗濯・補修		9.5 時間
その他会員間で行うことがふさわしい支援		25.6 時間

家族介護者交流事業

在宅介護者を対象に「オムツの使い方講習会」を開催しました。（参加延人数 15 名）

日常生活自立支援事業

判断能力が不十分で、かつ親族などの援助が得られない方に対して生活支援員が福祉サービスの利用手続きの援助や、日常生活の金銭管理援助及び書類等の預かりサービスを行い、地域で自立した生活が送れるよう支援しました。（利用者数 16 名　訪問回数 466 回）

■児童福祉の推進

子育て支援センター事業

未就学児とその家族や妊婦を対象に親子で自由に遊べる場、交流の場を提供し、育児に関する情報交換、相談の場として活用できるよう努めました。

- たんぽぽ広場の開設（登録人数　親 46 名　子 52 名　参加延人数 1,138 名）
- 子育て支援室の一般開放（利用延人数 1,102 名）
- 相談支援活動（相談人数 15 名　相談延件数 15 件）
- 親子ふれあいコンサートの開催（年 1 回）

放課後児童クラブ事業

保護者が就労等により、昼間家庭にいない児童を対象に放課後や長期休業中の生活の場を確保し、児童の健全育成を図ることに努めました。（登録人数 47 名内長期のみ 14 名　開設日数 253 日　延利用者数 8,733 名）

ファミリー・サポート・センター事業

非営利的な有償による育児支援を行う「ファミリー・サポート・センター」を設置し、子育ての手助けをして欲しい方（利用会員）と手助けができる方（協力会員）の橋渡しを行い、子育ての精神的・身体的負担の軽減を図りました。（利用人数 3 名　利用日数 3 日　利用時間 9 時間）

■障がい者（児）福祉の推進

就労継続支援事業所「大子福祉作業所」「若草共同作業所」の運営

障害者総合支援法に基づき、在宅の障がい者のために日常生活に必要な社会性の訓練・軽作業を提供し、自立と社会生活への適応力が養えるよう就労支援事業所の運営に努めました。

○大子福祉作業所（定員 20 名）
- 利用申込者数　16 名
- 開所日数　186 日
- 延利用者数　2,250 名
- 1 日平均　12.1 名

○若草共同作業所（定員 20 名）
- 利用申込者数　21 名
- 開所日数　248 日
- 延利用者数　3,692 名
- 1 日平均　14.9 名

指定特定相談支援事業所の運営

障害者総合支援法に基づき、利用者が自立した日常生活・社会生活が送れるよう相談に応じました。（契約件数 42 件）

■生活福祉資金貸付事業

1 生活福祉資金貸付（貸付件数 13 件）
2 台風 19 号により被災されたことによる特例貸付（貸付件数 10 件）
3 新型コロナウイルス感染症による特例貸付（貸付件数 1 件）

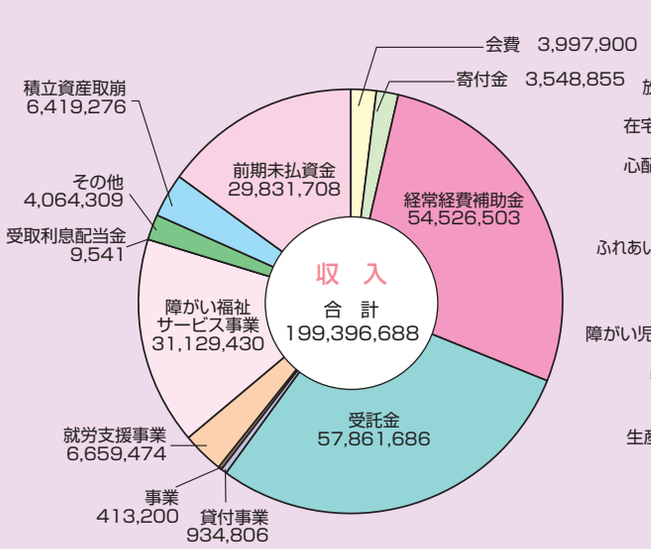
■大子町文化福祉会館「まいん」指定管理事業

町民が安全に気持ちよく利用できるよう施設の適正な運営に努めました。（貸出件数 1,252 件）

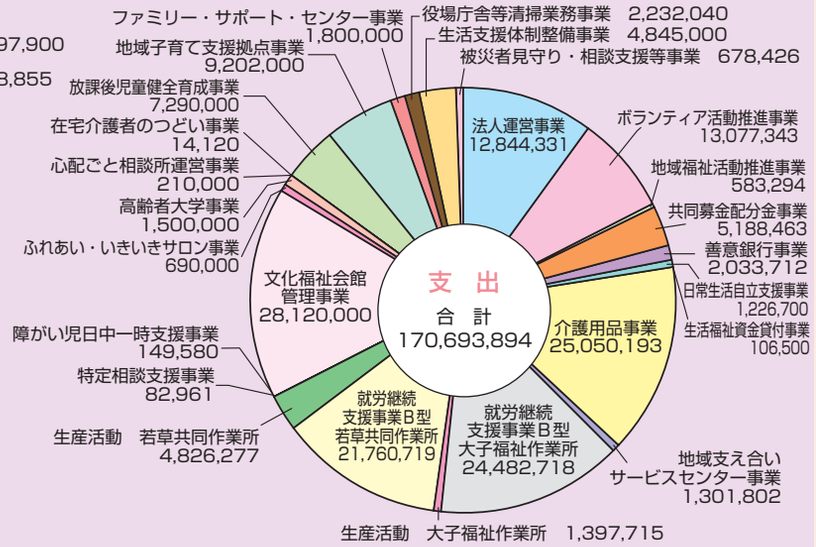
令和元年度決算報告

（単位：円）

収　入



支　出



令和２年度　大子町社会福祉協議会　事業計画

今日、少子高齢化・人口減少社会の到来やライフスタイルの多様化、核家族化・ひとり暮らしや高齢者のみの世帯の増加等が進行する社会情勢を背景に、官民を問わず様々な改革が進められております。

国においても、新たな法律の施行や福祉の提供ビジョンが示される等、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会に向けた「我が事・丸ごと」の地域づくりが推進されております。

また、地域社会や家庭の有り様が大きく変化する中で、子育てや介護をめぐる諸問題への対応、生活支援を必要とする高齢者への支援など、従来の社会福祉制度の枠組みでは対応することが難しい課題が、顕在化してきている状況にあります。

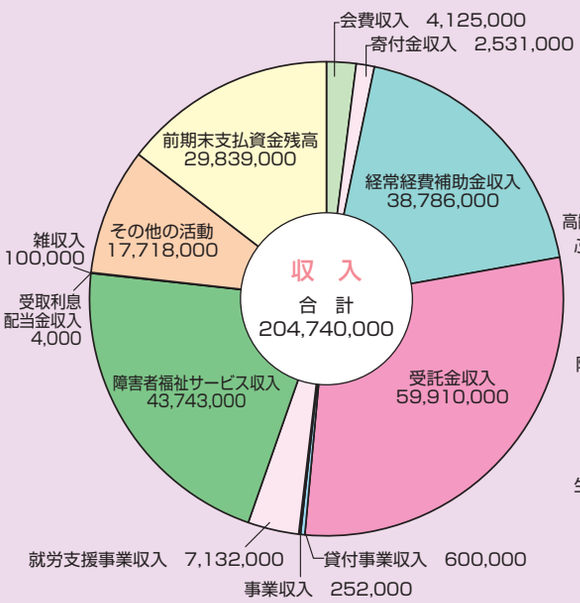
本町においても、社会福祉に対する住民の意識は複雑多様化、増大し、「地域福祉の推進」を目的とする当社会福祉協議会に寄せる期待は、益々大きなものとなっております。

こうした現状をふまえ、当社会福祉協議会としては、「だれもが安心してくらせる地域づくり」を実現するため、地域福祉事業や、障害者総合支援法に基づく事業、行政より受託している子育て支援事業、指定管理事業等を継続して運営してまいります。さらに地域が抱える様々な生活課題を的確に捉え、地域の方々やボランティア・行政・医療機関・関係団体との一層の連携を図りながら、必要な支援につなげつつ、不足する社会資源の開発や担い手の発掘を行い、住民同士で支えあえる地域づくりを進めてまいります。

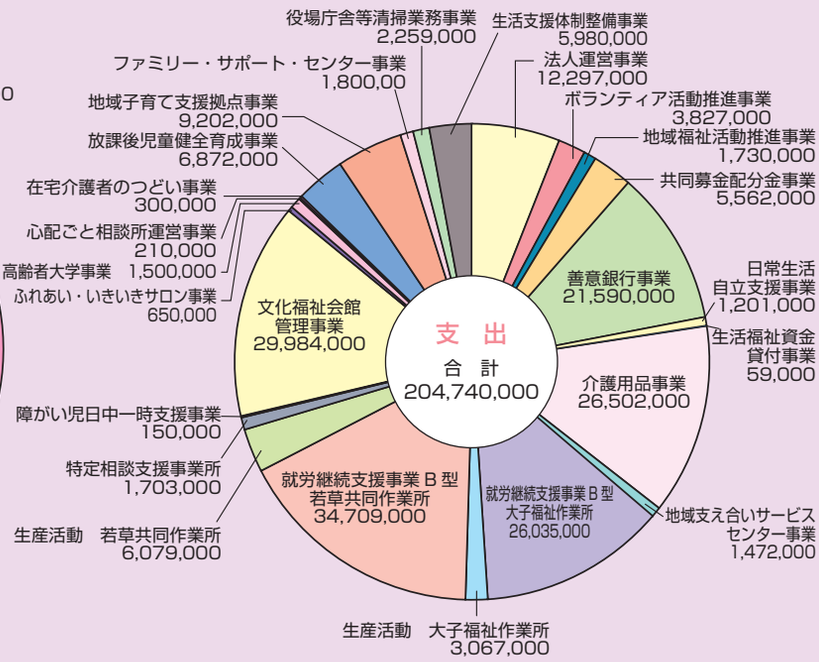
令和２年度　大子町社会福祉協議会　予算

（単位：円）

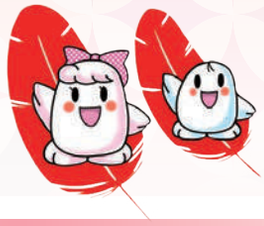
収　入



支　出



地域福祉事業	受託事業
法人運営事業（理事会、評議員会の開催等）	文化福祉会館指定管理事業
ボランティア活動の推進（ボランティア保険、連絡会の運営等）	ふれあいいきいきサロン事業（中央型サロン、地域型サロン）
地域福祉活動推進事業（地域づくり講演会等）	高齢者大学運営事業
共同募金配分金事業（福祉活動への助成、おせち品宅配事業等）	心配ごと相談所運営事業
善意銀行事業（預託金品の受付配分、生活つなぎ資金貸付等）	家族介護者交流事業（介護者のつどい、介護に関する講習会等）
日常生活自立支援事業（日常的金銭管理等）	放課後児童健全育成事業
権利擁護推進事業（短期預かりサービス等）	地域子育て支援拠点事業
介護用品事業（宅配事業、購入費助成事業）	ファミリーサポートセンター事業
在宅介護用品等の貸出	役場庁舎等清掃業務事業（大子町役場、大子町保健センター）
地域支え合いサービスセンター事業	生活支援体制整備事業
生活福祉資金貸付事業	
地域福祉活動計画の策定準備	
障がい福祉サービス事業	**その他**
就労継続支援事業所の運営（大子福祉作業所、若草共同作業所）	行政機関、福祉団体等との連携、協力
特定相談支援事業所の運営	啓発活動（福祉だいご発行等）
障がい児日中一時支援事業	総合相談支援
	共同募金運動の推進



10月1日から 共同募金運動がスタート

「だれもが　その人らしく　安心して暮らせる福祉社会の実現」をめざして

本年度も共同募金運動が全国一斉に実施される時期となりました。共同募金は、地域福祉の推進を目的に様々な福祉事業に活用されてきました。今般は、大雨等による災害時に被災地の救護活動及び復旧支援など被災された方々への支援活動に使われています。大子町も令和元年の台風 19 号の災害復旧のために活用されました。また、新型コロナウイルスの影響下で生活困窮した世帯を支援する活動にも活用されています。新型コロナウイルス状況化の中で大変恐縮ですがご協力よろしくお願いいたします。

共同募金のしくみ

共同募金は法律にもとづいて全国一斉に行われる民間最大の募金活動です。事前に使いみちや集める額（目標）を定め、地域の福祉のため、募金と助成に関する計画を立てる募金です。さらに、目標額や助成結果を公表することが義務つけられています。

一般募金　目標額 3,957,500 円・歳末たすけあい募金　目標額 1,641,500 円

共同募金配分のながれ

戸別募金
学校募金
街頭募金
法人募金
職域募金
自動販売機募金
→ 赤い羽根共同募金 → 大子町共同募金委員会
→ 一般募金 → 茨城県共同募金会 → 大子町社会福祉協議会 → 茨城県内の社会福祉施設社会福祉団体の活動支援や災害準備金等へ
→ 歳末たすけあい募金 → 大子町社会福祉協議会 → 大子町内の社会福祉団体等の活動支援や高齢者、障がい者（児）、ひとり親世帯等を支援する様々な福祉事業へ

飲み物を買って気軽にできる社会貢献

寄付つき赤い羽根自動販売機とは？
―いつでも気軽に寄付ができる新しい仕組み―

ドリンクが購入されるたびに、一定額（または一定割合）が赤い羽根共同募金に寄付される自動販売機のことです。

文化福祉会館「まいん」南側出入口にも 2 台「赤い羽根自動販売機」が設置されています。飲み物を購入するとその売り上げの一部が赤い羽根共同募金に寄付ができます。ご協力をお願いいたします！

赤い羽根自動販売機の設置にご協力をお願いします！

ポイント１　導入コスト不要！管理もお任せ！
ポイント２　設置者の負担は変わりません！
ポイント３　取扱商品や条件が選べます！
ポイント４　メリットがあるからこそ、注目されています！
ポイント５　現在設置している自動販売機を赤い羽根自動販売機に切り換えることができます！

設置についての問い合わせ先
社会福祉法人　茨城県共同募金会
☎029-241-1037

令和元年東日本台風
大子町災害ボランティアセンターの運営

日頃より大子町社会福祉協議会の運営につきまして格別なるご支援とご協力を賜りお礼申し上げます。

さて、昨年 10 月に発災した令和元年東日本台風から 1 年が経過いたしました。犠牲となられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

当協議会においては、発災直後より大子町行政と連携し大子町災害ボランティアセンターを立ち上げ、町内の方々をはじめ、県内外より 4,000 人を超えるボランティアの皆様のご支援をいただき、またボランティアが使用する資機材や車両、被災された方々への食糧や衣類、暖房器具等の支援物資、そのほか多くの励ましのメッセージなど、復旧・復興にお力添えをいただきましたことに心から厚く感謝申し上げます。

令和２年に入り、国内で深刻化されている新型コロナウイルスの感染拡大により、誰もが経験をしたことのない新しい生活様式の中で感染拡大防止と経済再生の両立を図ることが求められている現在ですが、今後も地域の支え合い活動を基盤に、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目指した地域福祉事業を推進してまいりますので、引き続き皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人　大子町社会福協議会
会長　高梨　哲彦

大子町災害ボランティアセンター運営報告

ボランティアは、町内をはじめ、町外県外全国各地より来ていただきました。また他市町村の社会福祉協議会の職員等に毎日応援に来ていただき、センター運営を支援していただきました。

〇ボランティア人数　　延べ 4,029 名
〇ボランティア活動件数　延べ 690 件

＜主な活動＞

10月12日	災害発生
10月13日	災害ボランティアセンター立ち上げ準備
10月14日	Facebook を開設し情報発信やボランティア受付を開始する
10月15日	災害ボランティアセンター開設 支援物資の受け入れ・配布開始
10月18日	県ボランティアバス運行（水戸市三の丸庁舎⇔常陸大子駅）
11月1日～	被災地域の全世帯を対象とした訪問活動を開始
11月17日	官民一体のクリーン作戦を実施（北田気地区）
11月24日	ぬくもりサロン開催（南田気地区）
11月29日	＃サポウィズよりストーブ 300 台の寄付
11月末～	ボランティア活動日を土日のみとする
1月　6日	大子町災害ボランティアセンターから、まいんボランティアセンターへ名称を変更
2月20日	よりそい訪問員を配置し応急仮設住宅等への訪問を開始

漂着物の運搬作業

床下の泥掻き出し作業

漂着物の撤去作業

矢田地区の皆さんによる炊き出し

たくさんの支援物資が届きました

マッチング班　ボランティアの方と活動場所へのマッチングを行いました

資材班　ここから必要な道具を受取り活動へ

活動が終了しボラセンにもどってこられた方は長靴等消毒を行いました

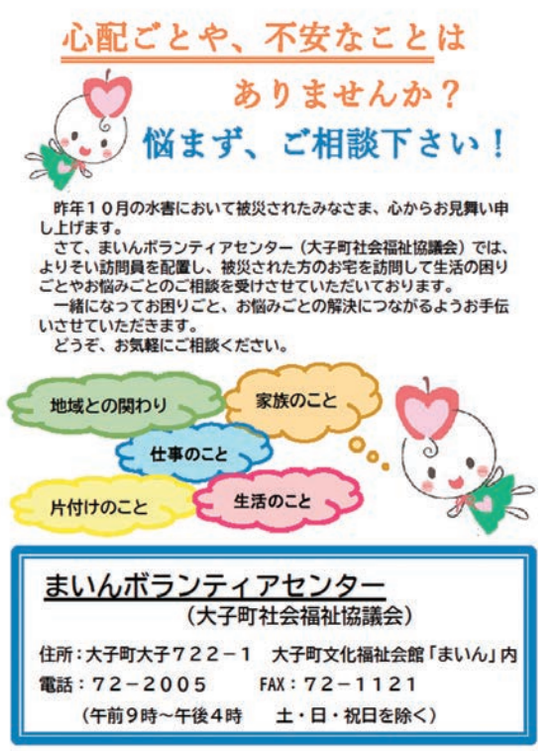
被災者見守り・相談支援

応急仮設住宅等へ入居された被災者が、それぞれの環境の中で安心した日常生活を営むことができるよう、孤独防止等のための見守り支援や日常生活上の相談を行うとともに、被災者を関係機関へつなぐ等の支援を実施しています。

○対象世帯数
- 応急仮設住宅　8 世帯
- 町営住宅　17 世帯
- 在宅避難　7 世帯

○訪問回数　127 回（R2.3.31 現在）

○配置職員等
- 主任相談員　1 名
- よりそい訪問員　4 名
- 事務員　1 名



心配ごとや、不安なことは
ありませんか？
悩まず、ご相談下さい！

昨年１０月の水害において被災されたみなさま、心からお見舞い申し上げます。
さて、まいんボランティアセンター（大子町社会福祉協議会）では、よりそい訪問員を配置し、被災された方のお宅を訪問して生活の困りごとやお悩みごとのご相談を受けさせていただいております。
一緒になってお困りごと、お悩みごとの解決につながるようお手伝いさせていただきます。
どうぞ、お気軽にご相談ください。

地域との関わり
家族のこと
仕事のこと
片付けのこと
生活のこと

まいんボランティアセンター
（大子町社会福祉協議会）
住所：大子町大子７２２－１　大子町文化福祉会館「まいん」内
電話：７２－２００５　FAX：７２－１１２１
（午前９時～午後４時　土・日・祝日を除く）

チラシを作成し定期的に訪問させていただきご相談いただいています。

支援金について報告

令和２年３月 31 日発行の「福祉だいご」に支援金を、お寄せいただいた方を掲載させていた方のほかに支援金をいただきましたので掲載させていただきます。たくさんのご支援ありがとうございました。

いばらきコープ様	300,000 円
常総市社協福祉協議会様	50,000 円
茨城県社会福祉協議会様	300,000 円
茨城県社会福祉協議会様	100,000 円

あなたの善意で福祉のまちづくり

善意銀行

社会福祉協議会には、町民のみなさんの温かい善意がたくさん寄せられます。その温かいお気持ちを大切にして、町民の福祉のため有効に活用させていただいているのが《善意銀行》です。

善意銀行に金品を預託された方々をご紹介いたします。

令和２年４月１日～令和２年８月31日（敬称略　単位：円）

芳　名・住　所	預託金品	芳　名・住　所	預託金品
匿名	100,000	匿名	50,000
匿名	1,886	鴨志田功文　高柴	100,000
匿名	100,000	大子くらしの会	7,327
匿名	100,000	久保田　央　大子	500,000
匿名	275	匿名	22,000

上記のほか、マスク・アルコール消毒液等の寄付がありました。

令和元年度　善意銀行　預託・払出報告

＜預託状況＞

物品件数	金銭件数	金　額	備　考
20 件	82 件	2,978,855 円	一般預託金（32 件）　1,835,466 円 指定寄付　（２件）　22,262 円 支援金　（48 件）　1,121,127 円

＜払出状況＞（金銭預託は平成 30 年度預託金分を令和 1 年度で払出）

物品件数	金　額	備　考	
6 件	2,033,712 円	安心箱配付事業（バスタオル・衣装ケースを配分）	19,019 円
		子育て支援（幼稚園・保育所（園）・子育て支援センターへ遊具・玩具を配分）	345,079 円
		車いす対応福祉車輌経費	308,508 円
		生活つなぎ資金貸付金	975,000 円
		（指定寄付）	
		だいご放課後児童クラブ大型プール購入費の一部	78,840 円
		火災見舞金（５軒）	250,000 円
		貸出用介護用品購入費	9,200 円
		文化福祉会館トイレ内エアタオル２台設置工事費用	36,720 円
		その他（事務消耗品代等）	11,346 円

お知らせ

●大子福祉作業所移転のお知らせ

大子福祉作業所は、令和元年東日本台風の被害により以前の作業所が使用できなくなったため令和２年６月に移転しました。

移転前　大子 771 番地１ → 移転後　池田 1513 番地（旧ウエルシア跡地）

お知らせに関するお問合せ　**大子町社会福祉協議会（電話：７２－２００５）**